

2018年 新春号  
通算 20号  
2018年 1月発行



季刊 医療法人社団シャローム 広報誌

# シャローム通信



あなたのシャロームは私たちのシャロームです  
Your shalom is our shalom



シャローム病院 院長 鋤柄 稔

## 医療法人社団シャロームの理念と使命

### 【理 念 (表題)】

私たちは聖書の教えに基づき、病める人々とご家族の痛みに寄り添い、心を合わせて、優しく温かい医療に努めます。

### 【使 命】

在宅医療、緩和医療、救急医療を特性とし、地域のニーズに呼応した多岐にわたる医療を行う。

## ～新年のごあいさつ～



シャローム病院  
すきからみのる  
院長 鋤柄 稔

### 「経験しないと分からないもの」



新年明けましておめでとうございます。

シャローム病院をはじめ、医療法人社団シャロームに対する日頃のご支援、ご鞭撻に感謝いたします。

2年前に緩和ケア病棟が本格的に運営開始となって以来、多くの患者様やご家族にケア、医療を提供させていただきました。それでも、足りない部分が多々あったかと思えます。日々、色々な方向にアンテナを張り巡らし、一人でも多くの方が満足と納得を得られるように努める所存です。

さて、私事で恐縮ですが、昨年5月に、椎間板ヘルニアに伴う強い腰痛発作に見舞われ、初めて休診せざるを得ない事態を経験しました。寝返りさえ困難な状況の中で、「このまま動けず、医師として働けなくなったらどうしよう」、「定期的な運動を愛し、運動で体力維持してきた私は、運動できないまま衰弱して死に至るのか?」、「もし私が医師として仕事ができず、給与もストップしたら家族はどうなるのか」との不安と恐れを抱きました。いわゆる『社会的苦痛』に遭遇したのです。その思いが強まった時、はっとしました。普段、緩和ケアが必要な方に、麻薬や安定剤を駆使し、かつ多職種でできるだけの支援をしてきたつもりでしたが、社会的苦痛、殊に経済的苦痛にどれだけ心配りができていたのだろうかと思わされたのでした。

社会的、経済的苦痛の緩和は、医療者だけで解決できない側面をたくさん含んでいます。社会保障制度に関わるものです。しかし、肉体的苦痛、精神的苦痛と同様に大切な事です。私ども医療者が関与できない部分を多く含むため、社会的苦痛への支援には限界があり、どうしても横に置きがちになります。しかし、とても大事な「ペイン」の一つです。

今回の出来事を通して、私どもには、自分が経験しないと分からない、あるいは分かっている、真剣に考えようと思わない苦痛があることをあらためて知りました。個々の患者様やご家族が抱える苦痛は多岐に亘ります。先に述べた「アンテナを張り巡らす」とは、自分の経験外の苦痛があるかもしれないとの思いを抱いて、患者様やご家族に接することであり、一つでもそうした苦痛を知って、寄り添い、支援することです。私どもはそうした苦痛の幾分かでも感知する力をつけるべく努力、研鑽を積み重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、この一年、皆様方のご多幸をお祈りいたします。当法人に対しては、忌憚ないご意見、ご指導賜れば幸いです。



## 講演会

### 野本市民活動センターにて 当院院長が講演をさせていただきました

主催：東松山市社会福祉協議会

11月18日(土)に、東松山市の野本市民活動センターにて当院院長が講演をさせていただきました。

「最後まで家にいたい ～それを叶えるための方策と限界～」と題し、在宅での介護のメリットとデメリット、看取りの实情や当院の在宅医療への取り組み等についてお話させていただきました。会場には大変多くの方にお越しいただき、皆さん真剣に講演を聞かれていました。ありがとうございました。



当院では疾患・年齢・距離を問わず、常勤医が全員参加で訪問診療を行い、多職種や地域施設と協力して在宅医療を必要とする患者さんご家族をサポートしています。当院に入院された際も、ご自宅のように過ごしていただきたいと考え、患者さんやご家族が希望される形をできる限り尊重しています。

## 勉強会

### 緩和ケア教育プログラム

#### (演題)「がん疼痛治療の実際」



埼玉県立がんセンター  
余宮きのみ医師

12月13日(水)、埼玉県立がんセンター緩和ケア科科長兼部長の余宮きのみ医師に、「がん疼痛治療の実際」と題した講演をしていただきました。がん患者さんの痛みと一口に言っても、痛みの性質は様々で、複数の痛みが混在していたり、患者さんによって感じ方も違うため、患者さんからの情報を丁寧にくみ取り、適切な治療をしていくことが必要となります。



今回の講演では、患者さんの症状に合わせた投薬方法の具体例や、副作用への対応などを非常にわかりやすく解説していただき、がん疼痛治療の実践的な最新情報を得る貴重な機会となりました。

勉強会で学んだことを活かし、患者さんにとってよりよいケアができるよう、今後活かしてまいります。